

新鳥取駅前地区商店街「民間企業とタイアップした食品リサイクル事業」

1. 取り組みの概要

- 新鳥取駅前地区商店街振興組合（鳥取県鳥取市）では、民間廃棄物処理業者とのコラボで、飲食店舗・食品販売店舗から排出される生ごみを分別収集し、事業者において液体肥料（有機土壌活性液）にリサイクルされ、近隣農家に活用してもらっている。
- リサイクル肥料で生産された野菜は、商店街飲食店等で食材活用や、日曜市で市民に直販され、資源循環を体感する機会を見出している。

2. 商店街概要

商店街名	新鳥取駅前地区商店街
所在地	鳥取市今町
組合数	88
URL	http://www.eki.or.jp/

3. 取り組みに至る経緯・背景

- ✓ 新鳥取駅前地区商店街では、飲食店舗や食品販売店舗から排出される生ごみは今まで可燃ゴミとして焼却対応していた。
- ✓ 商店街では、平成 16 年の鳥取市と近隣町村（岩美郡国府町・福部村・八頭郡河原町・用瀬町・佐治村・気高郡気高町・鹿野町・青谷町）との編入合併を機に、旧用瀬町に本社を置く廃棄物処理業者「因幡環境整備株式会社」からの食品リサイクル事業取組への参画を求める営業活動に遭う。
- ✓ 事業者主催で食品リサイクルの勉強会を開催し、商店街店主に対する食品リサイクルそのものの活動の意識啓蒙活動を行い、理解賛同を得て事業参画へと至る。

4. 取り組み内容

（1）取り組みの実態

- ✓ 商店街加盟の飲食店舗・食品販売店舗（7 店舗参加）において排出される食品廃棄物（生ごみ）を個店内で分別し、毎日収集しに来る廃棄物処理業者に託している。
- ✓ 同事業者は分別処理された生ごみを同事業者が所有プラントで微生物の力を活用して 1 日掛かりで液体肥料（有機土壌活性液）にリサイクル化。再生した堆肥は地元農家に提供され、農家では土壌活用に充てている。

[図] 食品リサイクルの取り組みを告知した、日曜日「いなばのお袋市」案内チラシ

いなばのお袋市 8月22日 鳥取駅前サンロード商店街

駅前商店街は「エコな街づくり」はじめました。

エコ活動リポート 昨年度の実績
新アーケードは全て環境にやさしいLED照明です。

生ごみが有機土壌活性液に。
生ごみをプラントで発生物の力をかりて1日で液肥(有機土壌活性液)に

8月22日 駅前コーナーで「液肥」プレゼント
新しい土壌がほしい。

鳥取駅前商店街 食品リサイクルループ
鳥取駅前商店街では、商店街から出る生ゴミを再利用する食品リサイクル事業に取組みはじめました。1生ゴミを分別排出することで、液体肥料にリサイクルし農業に活用してもらいます。栽培された野菜はお袋市で販売します。商店街を舞台にした資源循環を体験しにぜひお袋市にお越し下さい。

いなばのお袋市
環境にやさしい農産物を販売

8月22日 駅前コーナー「リサイクル液肥を活用したプランター野菜栽培教室」開催!

平成22年度 商店街実践活動事業

いなばの 日曜朝市 **お袋市** 8月22日 朝 8:00~11:00 雨天決行
第4日曜日 会場 鳥取駅前サンロード商店街

駅前コーナー
リサイクル液肥を活用した
プランター野菜栽培教室
第1回 朝 9:00~9:20 第2回 朝 10:00~10:20

サンロードに
魚屋 OPEN!!
新鮮 こだわって 野菜

お袋市の詳しい情報はWEBで。
<http://www.02961.net>
情報掲載の 日々、更新料のメールマガジンに最新情報!!
無料アドレス <http://otokuna.net/02961> ココから

お袋市でお買い物をしていただいた方(生ゴミを30リットル程度まで)に30分無料駐車券をプレゼント!!

お袋市 0857-26-3330
お申し込み・お問い合わせは
出店者 募集中 ☎0857-26-3330
主催:いなばの「お袋市」実行委員会
協賛:サンロード会・新鳥取駅前地区商店街振興組合
鳥取市中心市街地活性化協議会

[写真] 食品リサイクルループで再生された液体堆肥



- ✓ 生ごみで作られた液体堆肥は栄養価が高い有機肥料と言われているため、液体堆肥で作られた地元野菜は毎月開催される日曜日「いなばのお袋市」（「いなばの「お袋市」実行委員会」（鳥取商工会議所青年部）主催、同組合協賛）で販売している。

〔写真〕 日曜日でのリサイクル野菜の販売、液体堆肥を活用した野菜栽培教室の様子



- ✓ そのほか、日曜日では液体堆肥を活用したプランター野菜栽培教室の開催や、液体堆肥そのものの提供、取り組み事業概要の案内パネルの掲示など、来街者が商店街とともに環境問題を考えるきっかけづくりを提供している。
- ✓ 広報活動等の実施に当たっては、全国商店街振興組合連合会の22年度商店街実践活動事業補助（100万円）を活用している。

（2）事業取組に至るまでの問題点とその対応

- ✓ 同事業を取り組むに当たって、同事業者主催で行った食品リサイクルの勉強会では、過去の食品リサイクルの実践事例として、厚木市なかちょう大通り商店街による生ごみリサイクル活動例が紹介されるものの、その事例は商店街店主自らが生ごみを持ち寄り回収していく「リサイクルステーション」化づくりが主であった。
- ✓ 同様の取り組みは、新鳥取駅前地区商店街にとっては生ごみ回収・処理後の対応（商店街が一体となって取り組むリサイクルステーション内での設置管理・運営）が人・力を集結しにくい状況（若い力＝担い手が少なすぎ）にあったため、個店の範囲内で無理なく取り組めることが求められていた。
- ✓ 商店街店主らが参加する勉強会を通して、同事業者が回収まで行う「食品リサイクルループ構築の取り組み」が当商店街の求める個店の範囲内で無理なく取り組める姿に近いことが判ったため同事業者の取り組みに参画するに至る。

（3）事業運営上の問題点とその対応

- ✓ 生ごみ回収の取り組み事業は22年8月9日～始まったことから、（9月調査時点では）1か月足らずの実績にとどまっていることから、運営上の問題点は顕在していない。

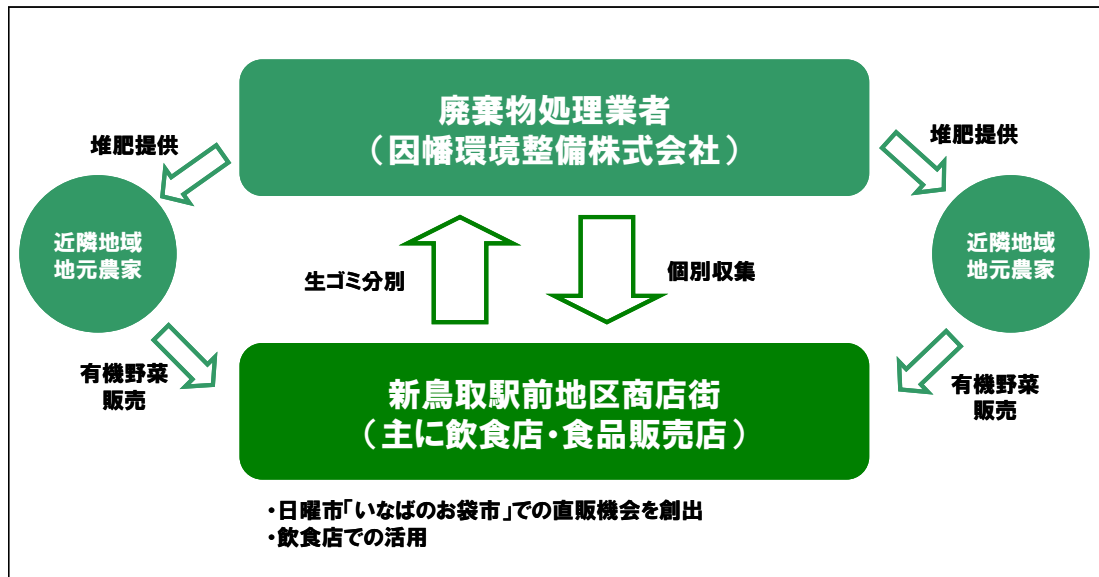
(4) 事業継続のポイント

- ✓ 生ごみの再生化により生成された液体堆肥を活用し、栽培された野菜の市民提供機会は、毎月第4日曜日に欠かすことなく続いている日曜市を活用している。
- ✓ 商店街の個店では無理なく取り組めるよう、生ごみの分別回収事業そのものを廃棄物処理業者に委託し事業取り組みの役割分担化を図っていることから、商店街にとっても廃棄物処理業者、その周辺農家にとってもお互いが加重負担なく取り組める関係性が保たれている。

5. 地域とのつながり

- ✓ 新鳥取駅前地区商店街は、廃棄物処理業者「因幡環境整備株式会社」との事業委託により、本事業に取り組んでいる。
- ✓ 生ごみの再生化により生成された液体堆肥は近隣の地元農家の野菜作りに活用されている。
- ✓ 地元農家で作られた野菜は、日曜市での直販機会や飲食店舗での利用などによって消費者へと資源循環されている。

[図] 新鳥取駅前地区商店街と廃棄物処理業者とのコラボによるリサイクル活動



6. 取り組みによる成果

- ✓ 毎月開催の日曜市では当事業を採り入れる前の5月から3か月間、液体堆肥を活用した野菜の野菜市をテスト導入していたが、当商店街に生鮮品を取り扱う店舗がないために来街者からの受けは高く、リピーターが訪れるようになっていることが判明して

いる。

- ✓ 日曜日（22年8月開催）で開いた、液体堆肥を活用したプランター野菜栽培教室では1組20人×2回が定員オーバーとなるほどの盛況ぶりである。
- ✓ 廃棄物処理業者（因幡環境整備株式会社）では食品リサイクルループ構築の取り組みがカーボンオフセットへの取り組みの動きがあることから、生産された地元野菜には今後ブランド化が期待できる。
- ✓ 商店街加盟店である鳥取大丸（百貨店）では、地元野菜のブランド化を見越して、地下食品売場での地元野菜売場の新設構想が挙がっている。（現状では売り場販売に耐えうる生産量が見込めないためペンディングとなっている。）
- ✓ 今回の取り組みに当たる事業試算ベースでは、生ごみ回収見込量は約7トン/月×3か月＝21トンであり、これまでの焼却処理に抛ると約16.5トンの二酸化炭素の排出が見込まれることから、食品リサイクル事業を採り入れることで16.5トンが抑制できることとなる。（上記効果の試算数値は環境省発表の排出係数に基づいている。）

7. 今後の課題・展望

- ✓ 今後の身近な取り組みとしては、液体堆肥を使い商店街にある花壇やプランターの肥料に混ぜてリサイクル循環を試行していく。
- ✓ 廃棄物処理業者（因幡環境整備株式会社）のカーボンオフセットの取り組みの動きを契機に、将来的には食品リサイクルの取り組みで生じる二酸化炭素の削減効果をクレジットとして取扱い、マイカーで商店街に来る消費者の二酸化炭素排出をオフセットする仕組みに発展させ、「エコ商店街」の継続性を目指す。